（別紙様式4）

令和7年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東洋医療専門学校	平成12年3月31日	太田　宗夫	〒　532-0004 （住所）　大阪市淀川区西宮原1-5-35 （電話）　06-6398-2255
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人大阪滋慶学園	昭和62年3月31日	浮舟　邦彦	〒　532-0003 （住所）　大阪府大阪市淀川区宮原1-2-43 （電話）　06-6150-1301

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	歯科技工士学科	平成15(2003)年度	－	平成26(2014)年度

学科の目的	職業人教育を通して社会に貢献すること』をミッションとし、広い視野を持って現実を見つめ、豊かで柔軟な感性と人格を身につけ、基本的知識・技術を発展的に捉え、常に新しい技術を追求し、未来を見つめる「心構え」すなわち「主体性」を持った社会に必要とされる歯科技工士の養成を目指している。この「主体性」の修得こそ本校が目指す教育であり、三つの教育理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を柱に「主体性」を持って、現代社会で自己の未来を切り開いてゆく創造的能力と、勇気と信念を持った人間の育成、各業界でリーダーとなれる人材の育成を教育の目標、目的としている。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	取得可能な資格　：　歯科技工士（国家資格）、顎顔面補綴技工士（認定資格）　2023年度合格率　：　100%（14名/14名） 3年制教育でより専門的、実践的な教育を目指し、基礎から応用まで一人ひとり丁寧な指導を行っている。なかでもCADCAM、オールセラミッククラウンなどの保険外治療においても一連の工程まで習得させ、業界が求める即戦力として活躍することができます。　中退率　：　3.8%（2名　主な理由:学力不審、経済的理由、進路変更など）

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,825 単位時間	903 単位時間	160 単位時間	1,762 単位時間	単位時間	単位時間

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
90 人	46 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	: 18	人
■就職希望者数（D）	: 18	人
■就職者数（E）	: 18	人
■地元就職者数（F）	9	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	50	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	100	%
■進学者数	0	人

■その他

なし

（令和　　6 年度卒業者に関する令和7年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和6年度卒業生）

歯科技工所、歯科医院、歯科商社等

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価:　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

当該学科のホームページURL

https://www.toyoiryo.ac.jp/gakka/dt/

企業等と連携した実習等の実施状況

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	2,825 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,175 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	2,870 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,175 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	5 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		5 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	0 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

学校法人大阪滋慶学園が設置する東洋医療専門学校の教育課程の編成における基本方針は、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映させることが重要であり、今後さらなる連携体制を構築していかなければならないと考えている。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

東洋医療専門学校教育課程編成委員会規程第2条に明記されているように教育課程編成委員会は、法人の最高意思決定機関である法人理事会の直下に置かれている。組織図参照同規定理第3条及び事第4条のとおり理事長が事務局委員長となりその他の構成メンバーは法人理事会により承認される。具体的には学校の各セクションの責任者と、専門分野に関する企業の役職員など広く選任されている。

教育課程編成委員会で得た企業等の意見や要望は学科内で要約されカリキュラムへの反映を事業計画発表会で共有し次年度事業計画に盛り込まれる。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
船木　昭治	船木デンタルラボ　代表　／　岡山県歯科技工士会　副会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
大池　信也	株式会社DL－GROUP（本部）　代表取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
前田　博規	TCデンタル 代表	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
【学内担当者】			
大石　直之	歯科技工士学科　学科長		－
山本　高徳	歯科技工士学科　副学科長		－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回　（7月、11月）

（開催日時（実績））

第1回　令和7年7月13日　9:00～12:00

第2回　令和7年11月30日　9:30～11:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今年度は学生の「退学」について昨今の退学に至る個別要因などを挙げ、その中でも人間関係の形成不全、精神疾患などで退学に至ってしまう学生が増加しているため、それらにおける本校の取り組み及び現状の課題を説明し、委員の先生方から意見をいただいた。

短期　定期的面談の実施。担任以外からの第3者の面談を行う。
　　精神疾患のある学生に対して、本人保護者の意思を尊重しつつクラス間で共有し、協力体制を作るなども検討する。

中期　産業医、専門カウンセラー等と連携し、教室外、学外での居場所づくり、ステップなどを設ける。

長期　グループ校とも情報共有、事例検討を行い、適切な対応を模索する。
　　通信制高校出身の卒業生現状把握し、成功事例として、学生指導に活用する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日々進化する医療業界では、新しい技術や新しい知識の習得が重要である。企業と連携した実習・演習を通じ、最先端の技術・知識習得を目的としている。また、技術・知識だけでなく目指す業界の方々と接することにより学習意欲就業意欲向上を目指している。

実習・演習等で学んだ知識・技術が将来における臨床現場で活用され、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うとともに、実社会におけるルール等を肌で感じ職業観・勤労観を育成するとともに、自らの適性を見つめながら具体的な将来像を描き、社会人としての総合的な人間力を高めることを基本方針としている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学外では実習指導要領に基づいて、企業と実習履修内容の詳細打ち合わせを事前に実施し、学内での事前オリエンテーションでは考え方・行動・姿勢を十分説明し、企業および担当者にも失礼の無いよう指導する。この実習期間中は企業担当者と担当教員で問題点の有無を相談し、問題点が発生すれば対応を行う。学内の演習においては業界が求める人材に必要な到達度について企業と事前に授業内容の打ち合わせを行った上で授業計画を立案し、それに基づいた演習の実施・及び評価を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
情報科学1	就職先で必要になるコンピュータの基本操作を身につけ、簡単な文書作成、計算処理ができる情報モラルを身につけ、情報化社会でのルールを守るパソコンの基本操作およびWord、Excelの基本操作の習得	株式会社ワークアカデミー
顎口腔機能学実習	あらゆる動きの顎運動や咬み合わせの状態、口腔内の機能を理解し、調和のとれた補綴物作製に応用することを目的とする教育。学生個々の顎の運動を実習で測定し、咬合器に再現する。また、模型上でワックスアップすることでコーンテクニックを習得する。	有限会社 Zahn
有床義歯技工学実習2	総義歯、部分床義歯、の形態や生体への機能を理解し、外観と咀嚼機能の回復を理解することを目的とする教育。また、総義歯、部分床義歯が製作できる技術を習得する。	Y・Fデンタルスタジオ
歯冠修復技工学実習3	歯科材料の性質，模型の製作，原型の製作，レジン成形，セラミック成形，金属成形，補綴装置の仕上げ，加工技術などの方法および知識を理解し技術を習得する。	ナノデンタルシステム
顎顔面補綴学実習	顎顔面補綴のエピテーゼの制作方法（顎義歯、外耳、義眼、顔面印象、眼科エピテーゼなど）を学ぶ。	近畿大学病院　口腔外科

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、資質・能力の向上を研修の基本方針としている。

教職員研修規程に基づき、担任マニュアル・教職員研修マニュアル・講師マニュアルに則り研修を実施している。具体的には、業界で求められる最新の知識・技術を習得するため業界が主催する学会への参加、大阪府専修学校各種学校連合会の主催する教員研修に積極的に参加している。

滋慶学園グループ内では教育の質的向上を目指すために独自の研究機関として滋慶教育科学研究所を設置し、教育システムの構築・教育ノウハウの蓄積を行っている。また専門分野に分かれた委員会が設置されており、より教育の質向上に向けた研修が行われている。その他としては、学生指導に関わる人・カリキュラム・教材・環境に関する各委員会による研修も行っている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	第41回日本顎顔面補綴学会学術大会	連携企業等：	日本顎顔面補綴学会
期間：	令和6年11月30日（土）12月1日(日）	対象：	杉田 順弘
内容	多職種連携		
研修名：	第26回日本口腔顎顔面技工学会	連携企業等：	日本口腔顎顔面技工学会
期間：	令和6年11月16日（土）	対象：	杉田 順弘
内容	これからの歯科技工　これからの口腔顎顔面技工		
研修名：	第7回国際歯科技工学術大会・日本歯科技工学会第46回学術大会	連携企業等：	日本歯科技工学会
期間：	令和7年1月25日（土）26日(日）	対象：	学科教員全員
内容	世界に発信！ アナログとデジタル技工の融合		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	2024年度国家試験対策研修会	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	令和7年7月～10月まで【オンデマンド】	対象：	学科教員全員
内容	国家試験振り返り、成功事例報告について		
研修名：	2024年度FDミクロレベル研修 【ZOOM参加】	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	令和6年7月3日(水)	対象：	山本　高徳
内容	学修成果を評価するために　～クラスマネジメントについて考える～		
研修名：	関技協研修会・特別講演	連携企業等：	関西北陸地区歯科技工士教育協議会
期間：	令和6年8月2日(金)	対象：	学科教員全員
内容	傾聴について		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	2025台湾ADT学会	連携企業等：	中華民国歯科技術学会
期間：	令和7年5月24日(土)～27（火）	対象：	杉田　順弘
内容	国際学術検討会・歯科器材博覧会		
研修名：	日本歯科医学会学術大会/日本デンタルショー	連携企業等：	日本歯科医学会
期間：	令和7年9月20日（土）	対象：	山本・倉田
内容	残せ技術、伝えろノウハウ！ ～学校では教わらない口腔顎顔面領域の技工～		
研修名：	第47回日本歯科技工学会学術大会	連携企業等：	日本歯科技工学会
期間：	令和7年11月23日（日）～24（月・祝）	対象：	学科教員全員
内容	多様な歯科医療に求められる歯科技工士のアイデンティティ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	2025年度国家試験対策研修会 【配信画像視聴】	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	令和7年6月4日～10月末までに随時受講	対象：	学科教員全員
内容	国家試験振り返り、成功事例報告について		
研修名：	研修会・特別講演	連携企業等：	関西北陸地区歯科技工士教育協議会
期間：	令和7年8月1日(金)	対象：	学科教員全員
内容	授業方法(学習方略)あれこれ　～授業で使えるチョッとした工夫～		
研修名：	専任教員講習会Ⅰ	連携企業等：	全国歯科技工士教育協議会
期間：	令和7年8月7日(木)、8日（金）	対象：	大石　直之
内容	カリキュラムプランニングおよび客観式問題作成法		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか・学校の特色は何か・学校の将来構想を抱いているか
（2）学校運営	・運営方針は定められているか・事業計画は定められているか・運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか・意思決定システムは確立されているか・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか・カリキュラムは体系的に編成されているか・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか
（4）学修成果	・キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか・授業評価の実施･評価体制はあるか・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教員の専門性を向上させる研修を行っているか・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか・資格取得の指導体制はあるか
（5）学生支援	・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか・資格取得率の向上が図られているか・退学率の低減が図られているか・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
（6）教育環境	・就職に関する体制は整備されているか・学生相談に関する体制は整備されているか・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか・学生の健康管理を担う組織体制はあるか・課外活動に対する支援体制は整備されているか・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか・保護者と適切に連携しているか・卒業生への支援体制はあるか・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか・防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか・学納金は妥当なものとなっているか
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか・財務について会計監査が適正に行われているか・財務情報公開の体制整備はできているか
（9）法令等の遵守	・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか・自己点検・自己評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
（11）国際交流	・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

内容	学校関係者評価委員からの意見	活用方法
学校全体	1　教育理念、目的、育成人材像 1-2　学校の特色はなにか 【高等学校・大学】今の学生にいかに主体性を持たせるかとても難しいと思います。学校全体での共通理解のもと進めて下さい。 【歯科技工士学科】同窓会役員として卒後教育の一端を担う立場にあるので活発な同窓会になるよう、尽力していきたいと思います。 【救急救命士学科】 ・自ら学び、行動する事を重要視しているのはとても良いと思います。 ・目標はすばらしいが、学生の理解度がどの程度かを図ることが必要だと思います。 【鍼灸師学科】 ・仕組みがしっかりあり、良いと思います。 ・システム化された完璧なカリキュラムで全く問題ないと思います。 【柔道整復師学科】 ・PIBAP教育システムはすばらしいと思います。 ・学生の将来性を考えた非常に良い理念だと思います。	1-2　学校の特色はなにか 本校独自のPIBAP教育システムをベースに作成されるカリキュラムに、キャリア教育の視点に立った内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。 また評価委員のご意見にもあるように、学生の理解度を深めるための取り組みを今後は意識し、より一層の教育効果を高めていく。
歯科技工士学科教育	■教育活動　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 学生が目標を明確化できるようなシラバスの作成を期待します。	■教育活動　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 今後もそれぞれの授業の位置づけを明確にしながら、連携を継続していこうと考えている。 教科目標と内容が解離しないよう留意しなければならない。

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日

名　前	所　　属	任期	種別
船木　昭治	船木デンタルラボ　代表　／　岡山県歯科技工士会　副会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	保護者
平井　夏海	箕面市消防本部　箕面消防署 警防第一室警防救急グループ　係長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	卒業生
能登路　賀一	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院　救急救命士科　副室長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	卒業生
松本　佳之	よしゆき鍼灸院　院長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	卒業生
川居　直人	WAFA鍼灸整骨院	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	卒業生
與那嶺　天音	有限会社　おおえのきトータルヘルスケア	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	卒業生
小早川　真一	元大阪府立寝屋川高等学校定時制　准校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	高等学校
大池　信也	株式会社DL－GROUP（本部）　代表取締役会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	企業等（歯科技工士学科）
前田　博規	TCデンタル 代表	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	企業等（歯科技工士学科）
森本　幸夫	社会医療法人 純幸会　関西メディカル病院　EMT科　顧問	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	企業等（救急救命士学科）
廣橋　久美子	公益社団法人大阪府鍼灸師会　理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	企業等（鍼灸師学科）
樋川　マサ	樋川鍼灸院　院長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	企業等（鍼灸師学科）
車野　徹則	公益社団法人大阪府柔道整復師会　副会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	企業等（柔道整復師学科）
金釘　直幸	かなくぎ鍼灸整骨院　院長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	企業等（柔道整復師学科）

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））

URL：　https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/

公表時期：　令和6年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開及び開示に関し、学校が必要な事項を定め、当該情報を積極的に公開することにより、教育活動や取り組みについて広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会全体からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校長名、所在地、連絡先、沿革、学校の特色（教育活動、カリキュラム） 教育目標、教育指導方針
（2）各学科等の教育	定員数、入学者数、在校生数、カリキュラム（科目編成、授業時間数）、進級・卒業の要件（成績評価基準、卒業の認定基準）、目指す資格・検定等、資格取得等の実績、卒業者数、卒業後の進路（進学者数、主な就職先、就職者数）
（3）教職員	教職員数（職名別）、教職員の組織・活動（教職員の研修・研究活動）
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職支援への取組状況
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、部活動・放課後活動・生徒会活動等の状況、家庭・地域・企業等との連携による取り組み、他の学校との連携による取り組み等の状況
（6）学生の生活支援	学生の生活指導への取組状況（指導上の諸問題（中途退学、不登校など）の状況及びそれに対する学校の対処や指導の状況、心のケアの体制整備等に関する状況、留学生支援や障がい者支援も含め学校が取り組む様々な学生支援）
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い（金額や納入時期等）、活用できる経済的就学支援措置の内容（授業料減免措置、奨学金等の案内）
（8）学校の財務	財務諸表
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方策
（10）国際連携の状況	外国の学校等との交流状況（教員・学生間交流や単位互換等に関する実績）
（11）その他	学則

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL：　https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/

公表時期：　令和7年7月31日

授業科目等の概要

（医療専門課程歯科技工士学科）令和7年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			外国語①②（英　語）	歯科英語の習得と日常の歯科臨床におけるコミュニケーション方法を学ぶ	1後2前	60	4	○			○			○	
○			美術概論	顔全体や部分的な流れから、調和のとれた顔とは、美とは何か。歯と顔から立体的なものの見方をデッサンにより習得することを目的とする教育。	1前	15	1	△	○		○			○	
○			情報科学1・2	パソコンを用い情報処理技術の基礎的な操作方法を身につけることを目的とする教育。	1後2前	60	2		○	○	○			○	
○			統計学	記述統計について理論を学び相関分析、検定の理論背景を学び、エクセルを用いた処理を学ぶ。	2後	15	1	○		△	○			○	
○			コミュニケーション学	コミュニケーションとマナーを理解し、「チームで働く力」を学ぶ	2後	15	1	○			○			○	
○			歯科技工管理学1・2	歯科技工に関係する歯科疾患と障害の習得を目的とする教育。 歯科技工士法を中心に関係法規について学ぶ。	1前2前	75	5	○			○			○	
○			公衆衛生	健康の保持、予防医学の重要性を認識し、環境問題について学ぶ。	3前	15	1	○			○			○	
○			口腔・顎顔面解剖学	口腔および顎顔面の組織について学ぶ。	1前	40	2	○							
○			歯の解剖学実習1～3	歯の形態や機能、その周囲の組織を解剖的事項から、講義・歯形彫刻・デッサンにより理解をする重要な教育。	1通2通3通	185	5			○	○		○	○	○
○			顎口腔機能学・実習	あらゆる動きの顎運動や咬み合わせの状態、口腔内の機能を理解し、調和のとれた補綴物作製に応用することを目的とする教育。	2通2後	60	2	△		○	○		○	○	○
○			歯科理工学・実習	歯科技工に必要な材料、機械器具について基礎的な知識の理解と材料の性質やデータをもとに実験し、測定することで補綴物製作に応用することを目的とする教育。	1通2後	210	12	○		△	○		○	○	
○			有床義歯技工学・実習1～4	総義歯、部分床義歯、いわゆる“入れ歯”といわれるものの形態や機能を理解し、外観の回復を目的とする教育。	1通2通3通	430	15	△		○	○		○	○	○

○			歯冠修復 技工学・実習 1～4	歯冠部の形態や機能、外観を冠(クラウン)、継続歯(さし歯)ブリッジなどの人工物により回復を目的とする教育。	1通 2通 3通	400	18	△		○	○		○	○	○
○			矯正歯科 技工学・実習	歯の顎骨に物理的な矯正力を加え、不正な歯並びや咬み合わせを良好な状態に改善するのを目的とした教育。	2 前	45	2	△		○	○		○	○	○
○			小児歯科 技工学・実習	人工的な装置により、失われた歯の部分的な虫歯を乳歯の回復と共に咬み合わせの正常化を目的とする教育。	1 後	45	2	△		○	○		○	○	○
○			顎顔面補綴 学・実習	顎および顔面の審美性と機能性を回復することを目的とする教育。	3 前	140	5	△		○	○		○		○
○			歯科技工実習 1～7	各科目で学んだ基礎を応用とし、種々の補綴物を製作し卒業後の社会において、すぐに役立てるよう技術の向上を目的とする教育。	1後 2後 3通	500	15			○	○		○	○	○
○			総合領域 1～4	国家試験対策　有床義歯技工学、歯冠修復技工学、歯の解剖学、歯科理工学、小児歯科技工学、矯正歯科技工学、顎口腔機能学、関係法規の８科目のも付議試験と解答および解説、実習。	2 通 3 通	315	21	○	△		○		○		
○			課題研究	設定されたテーマについて研究、考察することで考え、行動し、自ら問題解決のできる能力を養うことを目的とする教育。	3 前	100	3	△	○		○		○		
合計				46科目	2825単位時間（　117単位）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	所定の単位を全て修得すること。	１学年の学期区分	前後 期
履修方法：	学年を通じて所定の授業時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上の合格点を取得すること。	１学期の授業期間	24 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。